

氏名：

造影剤使用MRIの説明

今回のMRI検査は造影剤を血管から注射しながら撮影します。造影剤を使用すると、病気の部位がより明確に写り、正確な診断に役立ちます。また、疾患によっては造影剤を使用しなければ正しい診断ができない事もあります。

【造影剤の副作用について】

- ・軽症：100人に1人程度 治療が不要な吐き気、発疹、頭痛など
- ・重症：1万人に1人程度 治療が必要なショック、血圧低下、意識消失など
- ・きわめてまれですが、死亡例の報告（100万人に1人位）もあります
- ・ごくまれに検査後数時間から数日後に体のだるさ・頭痛・じんま疹などの副作用が現れることがあります（遅延性副作用）
- ・また、過去に副作用がなかった方にも起きる可能性があります

【注意が必要な方、使用ができない方】

●MRI造影剤アレルギー

過去に副作用があった方は原則使用できませんので、必ずお申し出下さい。

MRI造影剤にはガドリニウムが含まれ、ヨードは含まれません。CT・尿路造影・血管造影等使用するヨード造影剤とは種類が違うので、ヨード過敏症とは関係ありません。ただし、過去に重篤なヨード造影剤アレルギーがあった場合、通常より約3倍副作用出現率が上がるとされています。（発現率で約6%）

●喘息

気管支喘息がある方では、副作用出現率が通常より約2倍上がるとされています。治療中の方、最近まで治療していた方はお申し出下さい。

●腎不全や高度腎機能障害

腎機能が低下している方では、稀ですが重篤な合併症（腎性全身性線維症：NSF）が起きる可能性があることが報告されています。

急性腎障害、重症な慢性腎障害、透析中の方はMRI造影剤を使用できません。特に透析中の方は必ずお申し出下さい。

●妊娠・授乳中

胎児・乳児への安全性が確立されておらず、原則として使用できません。

- ・造影剤には、この様な副作用がありますが、主治医はあなたの病気を診断し治療する上で、造影剤を使用した検査が必要であると考えています。
- ・造影剤の意義と副作用を理解された上で、造影検査に同意していただければご署名願います。なお、一旦同意されても、直前まで取り消すことができます。